

## メカジキ 北太平洋

### Swordfish, *Xiphias gladius*

#### 管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)、北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会(ISC)

#### 最近一年間の動き

2006年11月にISCメカジキ作業部会データ準備会合が開催され、北太平洋域のメカジキは一つの資源として扱うが、東部太平洋域熱帯域の漁獲分布に明瞭な不連続域が認められないことから、東部太平洋南緯側の群を同じ系群と見なすかどうか再度見直すことになった。

#### 生物学的特性

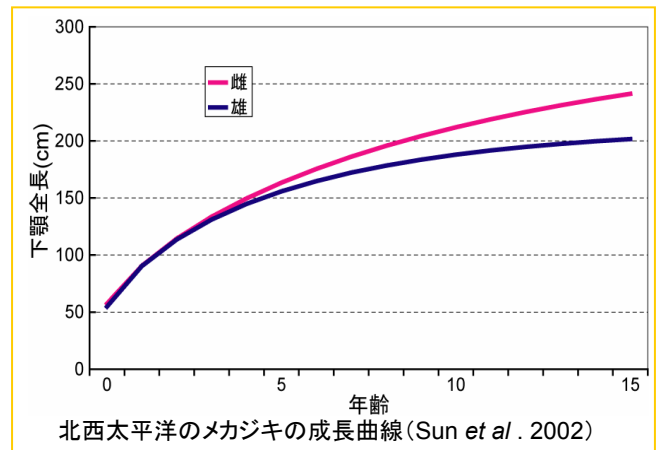
- 寿命: 15歳以上
- 成熟開始年齢: 3歳
- 産卵期・産卵場: 周年、熱帯・亜熱帯水域
- 索餌期・索餌場: 秋から冬、温帯域
- 食性: 魚類・頭足類
- 捕食者: 調査中

#### 漁業の特徴

漁獲の半分以上は、本種を主対象に浅く漁具を設置する夜間のはえ縄で漁獲するが、大目流し網、突き棒、まぐろ類を狙うはえ縄の混獲でも漁獲する。本資源の主要漁獲国は日本で、1970年代には全体の9割程度を漁獲したが、近年米国や台湾の漁獲増のため、4割程度に落ち込んだ。

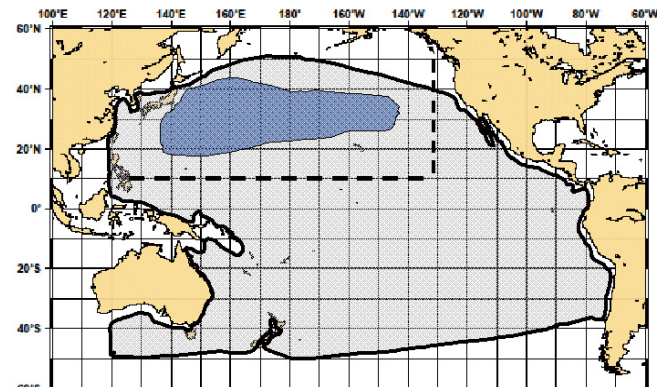
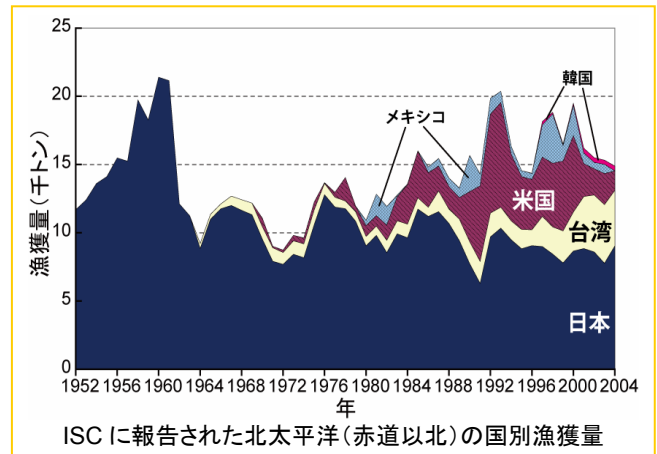
#### 漁獲の動向

ISCに報告された本資源の漁獲量は、1960年前後に2万トンを上まわったが、その後急激に減少し、1万トン前後に落ち込んだ。しかし1980年代以降米国及び台湾の漁獲増により、全体で1.5万トン以上になった。漁獲統計はまだ不十分なので今後更に整備する必要がある。



#### 利用・用途

切り身(ステーキ)、刺身、寿司、煮付け



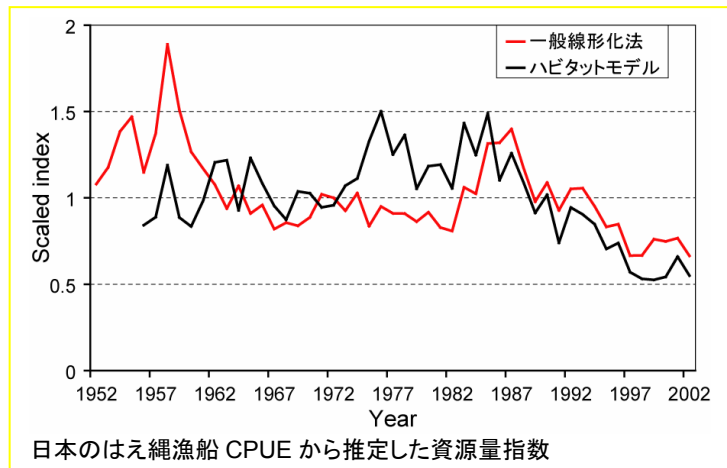
本種の太平洋での分布域と北太平洋の漁場  
点線は、資源解析に使用した境界線

## 資源状態

近年の統計は不完全で、台湾漁船の外地水揚げやフィリピン・中国等の漁獲量(最大で4~7千トン)が含まれておらず、早急に漁獲統計の整備の必要がある。

資源評価は ISC で参加国の研究者が共同で実施した。評価は、日本の遠洋・近海はえ縄漁船の CPUE を標準化して得られた資源量指数と、統合モデル MULTIFAN-CL で行われたが、後者は信頼に足る結果を導き出せなかった。CPUE の標準化は、海区・季節・漁具の設置水深の違いによる CPUE の差を、一般線形化で補正して資源水準の変化を取り出す方法と、上記の補正をハビタットモデルで直接行う 2 手法で行った。

両手法で推定した資源量指数は 1950 年代の水準では異なったが、1980 年代中頃以降、共に一貫した減少傾向を示した(右上の図)。両推定とも 2000~2002 年の値は 1980 年代後半の半分以下となり、近年の資源水準の低下を示している。また、両推定とも、東沖漁場とハワイ北方漁場(Area 4-5)で異なるトレンドを示し、これら水域で系群が異なる可能性があり、今後調査の必要がある。



## 管理方策

2004 年 1 月のハワイでの ISC メカジキ作業部会会合では、MULTIFAN-CL による資源解析がうまくいかず、漁業が資源水準に与えるインパクト等も評価できなかったが、はえ縄漁業の CPUE を標準化して得られた資源量指数は近年の資源水準悪化を示したため、“今後漁業の動向を注意深くモニターしていく”という勧告だけが出された。

## 資源管理方策まとめ

- 今後漁業の動向を注意深くモニターしていく。

## 資源評価まとめ

- 資源評価は ISC において実施
- MULTIFAN-CL により資源評価
- 資源減少、ただし漁業が資源に与える影響は調査中

## メカジキ(北西太平洋)資源の現況(要約表)

資源水準	中位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (2000~2004 年)	14,900~19,500 トン 平均: 16,300 トン
我が国の漁獲量 (2000~2004 年)	7,800~9,000 トン 平均: 8,600 トン